

“Heart to Heart”

心から心へ わかちあう あたたかさ

第8巻 第3号 (No.25)

発行日 平成26年3月3日

目次:

美しい似顔絵になるように	1
コラム:「ギフテッド— 天才の育て方」の出版	2
療育プログラムのようす	2/3
生活の質の向上と合理的配慮	4
ご案内	4

美しい似顔絵になるように

今年の11月には、学園創立50周年の記念式典が行われます。いわば学園の50歳の誕生日ということ。ここまでにはさまざまな産みの苦しみなどありましたが、多くの人に支えられて祝福の日を迎えます。私も学園の勤務生活が長いので、その成長の姿をまるで一人の人生を見るような気持ちで思い返しています。

これと同じように、私たちの歩みの中でも起伏の激しい経験をすることがあります。その時に経験するどんなに辛いことも楽しいことも、時は平等に流れて全てが過ぎ去っていくのですが、過去の記憶は決して同じ重さではありません。人の心に残るのは事実ではなく、思いの加わった心象です。その思いにはどうしても各人の傾向が生まれます。はつらつとした喜びでも、悲しみでも、同じ思いが習慣化された場合それが当人の生活に影響を与えるのは当然のことでしょう。日常の思い方を変えることは、案外人生そのものを変えていくキーポイントになっているのかと思います。

石けんやシャンプーで見かける“Doveダヴ”に、“リアルビューティスケッチ”というCMムービーがあります。FBIに長く勤めたという似顔絵の専門家が、あえて対象者の顔を見ずに、顔の特徴を質問しながら描いていきます。一枚は本人から聞いて描いた絵で、もう一枚はその人の特徴を他人から聞いて描いたものです。その結果は、何人もの似顔絵のどれもが他人の語りをもとにした絵の方が美しいのです。本人たちの表現による似顔絵は、実際より自信がなさそうだったり悲しそうだったり、太めに誇

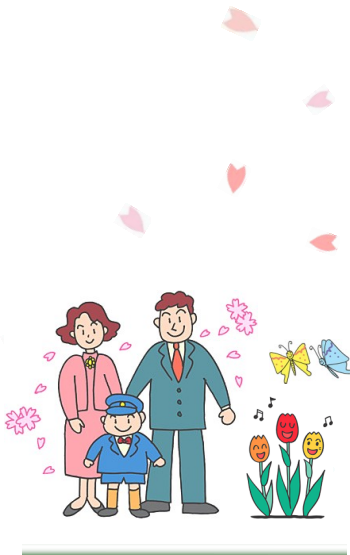
武蔵野東教育センター所長 長内博雄

張されたりしていました。どうも人は、自分の欠点にこだわりすぎるきらいがあるようです。他人の言葉をもとに描かれた自分の生き生きとした似顔絵を見てうなづき、涙を浮かべている女性の姿が印象的です。

さて、センターに通ってきている子どもたちはどんな記憶を積み重ねているのでしょうか。やはり多くの子どもたちが不安を強く持っていることは仕方ないところですが、それもセンターでの活動に取り組んでいく年月の経過とともに和らいでいきます。中には、天真爛漫で揺らぎなく楽しそうに過ごしているお子さんも見かけます。一面的ではありますが、屈託のないその姿にはある意味で人生の達人を感じさせるものがあります。明るく楽しそうな表情や態度は人に安心感を与えますし、自然とその人の周りには人が引きつけられていくものです。

もしも、私たちが走馬灯のように映る自分のこれまでの人生を見ることができたとするなら、どんな思いをもつのでしょうか。流れてくる人生の映像に悔恨の情がわく場面もあるでしょうが、一方ではよくここまで来れたものだ、私も自分なりに結構頑張ってきたじゃないか、と、それぞれが思えるような気がするのです。足りないところは逃げずに受け止め、そして良いところははっきりと自覚するという素直な心は、大人にとっても大事なことですね。

日々健気に頑張っている子どもらに寄り添って歩んでいる私たち。自分の表現で描いてもらう似顔絵が美しいものになるように、お互いに我が人生を幸せに感じ、自信を持って生きていきたいものです。





コラム 編集者としての出会い (4)

「ギフテッド—天才の育て方」の出版

師岡 秀治 (学園アドバイザーボード、学研 実践障害児教育編集部)

1999年、満員の日本発達障害学会で、著名な高機能自閉症者で動物学者でもあるテンプル・グランディン氏は語り始めた。アインシュタインの写真を掲げながら、天才って異常ということ！と。続いてビル・ゲイツに触れ、自分とゲイツ氏との共通点を一覧で示し、彼はアスペルガー症候群だと。今でこそ、このような特異な才能のある人たちには自閉症の方たちと共通の特徴があることが知られているが当時は専門家にとっても衝撃的な事実であった。わが国では特別支援教育というと知的障害を中心としているが先進国では知的上位の子どもたちへも特別な支援教育があるという。一方わが国のそれらの子どもは通常の学校

でお客様扱いされている。このような手付かずの分野にも挑戦してみたい。そのように考え始めた杉山登志郎先生のご提案に応じて連載をしていただいた。

私の担当していた「月刊実践障害児教育」は創刊当初より知的障害教育の先生向け雑誌であったので、前回のコラムのアスペルガー症候群を扱ったりしたことは冒険であった。まして天才児の育て方を連載することには反対があり、読者の反応も気になったが、私は杉山登志郎先生のご提案に応えたいと思った。

彼らはギフテッドと呼ばれる。天が贈った才能という意味だ。発達障害

でなく、発達凸凹である。通常より発達していないところもあるが、優れて発達しているところ

もあるという伸びやかな彼らの捉え方だと思った。そして視覚が優位なタイプと聴覚が優位なタイプがあり、その特徴と伸ばし方などが具体的に語られた。単行本にしたところ、読者からは「変わっていても偏っていてもわが子を応援するぞという勇気を持てた」などのご意見が寄せられた。またこの本の内容は学園理事長の寺田欣司先生にも高い評価をいただき、雑誌での杉山先生との対談も実現したことはうれしい思い出である。



このコラムは4回シリーズでお届けしました。

療育プログラムのようす

アート教室 一年間で色々な作品を製作しましたが、最後の製作は「紙版画」です。試作として、まずは鬼の顔を紙版画で作ってみました。鬼の目、耳、角などそれぞれのパーツを異なる色画用紙で切って貼りましたが、子どもたちは大きな口や小さな目、1本角や2本角など、ユニークな鬼の顔に仕上げていました。どのような版画になるのか、インクをつけて刷るのが楽しみです。(北川)

ダンス教室 一年のまとめの発表会を行いました。作品は、「ウォーミングアップダンス」と「フラワーエンジェル」です。お花を手に、ラベンダー色の衣装で天使のように可憐な舞いを披露できました。準備では、上級生は互いに衣装の確認をし、更に下級生のことを気にかけてあげることができました。発表会を通して益々よいチームワークが築けたように思います。たくさんの応援、ありがとうございました。(新堂)

体育教室 小学生の体育教室では、跳び箱に挑戦しています。今年度は力強い「踏み切り」をテーマにあげ、「ケンケンパッ」や助走から踏み切りまでの練習をたくさん行ってきました。膝を伸ばして開脚することがイメージしにくい子どもには、iPadで実際に自分の映像を見せることで、より意識を高めて練習に取り組むことができました。(鈴木)



どんな風に刷れるかな？



発表会 大成功でした



やった～跳べたぞ！



新聞の下書き



3つのヒントを考えよう

コンピュータ教室 今年一年、コンピュータ教室で習ってきたことを振り返り、Wordを使用して、新聞形式にまとめています。各自が心に残っている学習内容を3つずつ考え、見出しを決めて、うまくできたことや大変だったことなどを記事にしていきます。Wordは夏頃から継続して練習を行ってきているので、かなりの上達が見られます。きっと素敵な新聞が出来上がると思います。(大澤)

言語プログラム 説明する力を養う目的で、スリーヒントゲームを行っています。まず、絵を見て3つのヒントを言います。それを聞いて相手が答えます。初めは、絵を見てヒントを出す前に「キリン」などとすぐに答えを言ってしまいましたが、慣れてくると「首が長くて、大きくて、足が長い動物は何でしょう？」などと問題を出すことができるようになりました。動物や果物は説明しやすいようですが、コップや帽子、傘など身近にあるものは苦労している様子です。日常生活を振り返るきっかけにもなっています。(計野ち)



スクールプログラム

幼児 暖かい春もうそこまで来ています。この時期はこの一年の子ども達の成長を感じます。心細そうな入室は「いってきます」の笑顔に変わり、「むずかしいな」の気持ちは「ちょっとわかってきた」「できたよ」の自信を持った表情に変わりました。「自分のことは自分で」を目標に取り組んだ小さな積み重ねを大切に、それぞれの進級、進学を迎えてほしいと思います。応援しています！（本田）



おひなさまバス出発！

1年生 授業の終わりの時間に、SSTの活動を取り入れています。ペア探しゲームでは、友だちを意識すること、好き嫌いゲームでは、自分の意見を言うことを目標にしています。顔写真を2枚使って神経衰弱も行いました。1年間一緒にのクラスで勉強してきた友だちの顔を見つけると、「あ、〇〇君だ！」と楽しそうに取り組む様子が印象的でした。（諸橋）



同じ顔はどれかな？

2年生 算数では「お金」の学習に入りました。前回の単元で「大きな数」を学習しましたので、数の構成などはよく理解しています。本物に似せた硬貨や紙幣を使って、財布の中から指定された金額を取り出す練習にも取り組んでいます。「なんだか、お金持ちになったみたい。」などと言いながらとてもうれしそうです。生活の中で役立ててほしいと願っています。（宮下）



いくらかな？

3年生 スクールでは、1年間を通して模写トレーニングに取り組んできました。モチーフは、顔や今年の干支である午(うま)、行事や季節にまつわる題材が中心です。繰り返し取り組むことで複雑な構図でも正確に模写できる子どもが増えてきています。季節の風景画は、春・夏・秋・冬と徐々に上手になっていく成長過程を確認できるよい機会となっています。（宮川）



よく見て書こう！



立体図形を作ろう！

4年生 「聞く」をテーマに学習してきた4年生。最近、体育や作業の片づけなど学習以外にも、聞いて考え、機敏に行動する姿が増えてきました。算数では、正方形と長方形を使って「直方体と立方体」の模型を作りました。実際に手を動かし、平面から図形を作ることで、辺や頂点、面の数、どの図形が何枚使われているのか理解を深めました。（高橋）



電卓を使って

5年生 生活の中で活かせる教材として国語は「ゆるやかにつながるインターネット」、算数は「割合」の学習を行いました。コンピュータを使う時の約束事や割引後の値段を電卓で計算する方法などを行うことで、生活力の向上につなげたいと考えています。4月からは小学校最高学年になることを自覚している子どもたちが多く、活躍が期待されます。（藤本）



1トンは何キログラム？

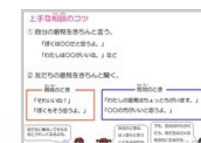
6年生 算数では単位の学習をしています。小学校で学習する単位の種類はとても多いので、図工の時間に「単位換算器」を製作し、それを見たり動かしたりしながら単位換算の課題に取り組んでいます。それぞれの単位の読み方・書き方、大きな数、小数の計算といった小学校6年間の復習も兼ねながら身の回りの単位の大きさをつかんでほしいと思います。（臼井）

中学生 数学の学習に関連し、広告からの情報の読み取りをしました。広告には店舗名、開店時間、商品の値段など数多くの情報が雑多に示され、1枚ずつレイアウトも異なり、広告ごとに見方を理解しなければなりません。そのため、様々な見方を知り、必要な情報を自分で探すよい練習となります。学習後には弁当屋の広告を見て「君は何にする？」と友だちとの会話をはずませていました。（北川）



広告を見て考えよう

SST教室 低学年はレクリエーション、高学年はそれに加えて話し合いの時間などを通して、一年間友だちとさまざまな関わりを持つことができました。どのクラスも4月と比較して子ども同士の交流がとても活発になりました。SST教室で体験した友だちとのよい関わりが、それぞれの学校や地域での友だちとの関わりに活かされていくことを期待しています。（大澤）



相談のコツ



生活の質の向上と合理的配慮

副所長 計野 浩一郎

文部科学省は、インクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育を着実に推進していくため、各学校の設置者及び学校が、障害のある子どもに対して、その状況に応じて提供する「合理的配慮」の実践事例を収集するとともに、交流及び共同学習の実施や教育資源の組み合わせを活用した取り組みの実践研究を行い、その成果を普及するための事業を行っています。武蔵野東第1・第2幼稚園もこの事業に参加し、合理的配慮と基礎的環境整備について報告書をまとめています。私も検討委員として参加していますので、このことについてはいずれお伝えしたいと思います。

今回は、以前にも簡単に触れたことがありました「合理的配慮」について記したいと思います。

そもそも「合理的配慮」という言葉は、国連総会において2006年に採択された「障害者の権利に関する条約」の中で障害者個人に必要とされる合理的配慮が提供されることを求めていることで、日本でも批准に向けた法改正を通じて、最近よく使われるようになりました。社会生活上の合理的配慮について例をあげると、段差をなくしたり、手話や点字を使ったりして、学習や仕事などにおいて、障害者にとって社会的な不利が生じる原因を取り除く配慮をするということです。発達障害者の教育においては、文部科学省は「個別指導のためのコンピュータ、デジタル教材、クールダウンするための小部屋等の確保、口頭による指導だけでなく、板書、メモ等による情報掲示など」を例示しています。また仕事においては、1990年のADA(障害のあるアメリカ人法)の日本語訳が出ていますので参考にされるとよいと思いますが、障害のある人の場合、環境整備や配慮等を整えて、スタートラインを同じにしないと能力自体が発揮できないことがありますので、能力評価の前提として、必要な配慮を行うのは社会的責務であるということなどを法律で定めています。

合理的配慮はもともと「社会モデル」という考えからきている概念です。現在、世界保健機構は、ICF(国際生活機能分類)において人々の生活機能や生活能力というものを単に個人の問題(個人因子)としてのみでとらえるのではなく、環境との関係(環境因子)との相互作用としてとらえています。そのことから障害のある方の「生活の質」の向上を目指すために社会モデルという考え方の流れの中で、合理的な配慮をするということが言われてきた経緯があります。

人は、障害のあるなしに関わらず誰もが「生活の質」の向上を目指しているし、「生活のしづらさ」を改善したいと思っています。多様な人々の生き方や生きがいを互いにどのように尊重し、認め合い、共に生きていくか、つまり、誰もが暮らしやすい社会環境の構築を目指すためにあらゆる分野の専門家(本人、保護者も含む)が連携し、物事をどのように理解し、納得できる、また合意や妥協ができるかを権利擁護の観点からも「合理的配慮」を考えていく必要があります。センターの療育においても人権擁護の視点を含めた合理的配慮をこれまで以上に個々の子どもたちに応じて行っていく必要を感じています。

[参考] ADAに基づく合理的配慮及び過度の負担に関する雇用機会均等委員会施行ガイドンス(2002)

武蔵野東教育センター

〒180-0012 武蔵野市緑町2-1-10

電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595

Email: education-center@musashino-higashi.org

ホームページもご覧ください

<http://www.musashino-higashi.org>

平成26年度療育プログラムについて

若干まだ空きのあるプログラムがございますので、直接お問い合わせください。

サマープログラム日程は以下の通りです。4月上旬から募集を始めますので是非ご応募ください。

第1回 8月 2日(土)～ 6日(水)

第2回 8月10日(日)～14日(木)

セミナーのご案内

平成26年度のセミナーの日程が決まりましたので、ご案内いたします。講師が決定しましたらホームページなどでお知らせいたします。4月上旬より募集を始めますので、ご希望の方はお早めにお申し込みください。

①平成26年 5月30日(金) 10時～12時

②平成26年10月 9日(木) 10時～12時

③平成27年 1月29日(木) 10時～12時